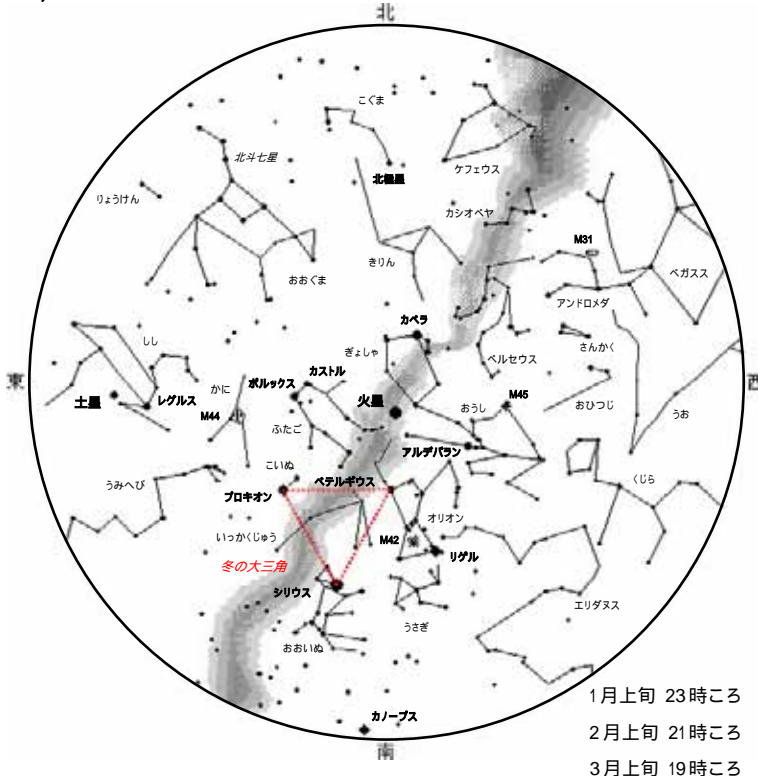


★ ラインナップ ★

冬の星空 火星接近！
 安倍晴明史跡めぐり 其の二
 蘆屋道満 安倍晴明と蘆屋道満の術比べ 蘆屋道満の呪い
 倫敦(ロンドン)博物館めぐり その2

☆ 冬の星空 ☆



秋の四辺形もすっかり西の空へ傾き、夜空には冬の星座の1等星が輝く季節になりました。この冬は、「火星」が明るく輝き、星空に赤い彩りを添えています。

冬の星座の代表格といえば、南の空高くに昇ってきた「オリオン座」でしょう！ 二つの1等星赤いベテルギウスと青白いリゲルが、三つ星をはさむようにして輝き、色のコントラストを一層美しく見せています。その南東では、「おおいぬ座」の1等星シリウスが恒星のなかで最も明るい輝きを放っています。ベテルギウスにシリウス、そして「こいぬ座」のプロキオンの三つの星を結んだ三角形が「冬の大三角」です。

さらに、右目に赤い1等星アルデバランをもつ「おうし座」、1等星カペラを含む五角形の星の

1月上旬 23時ころ
 2月上旬 21時ころ
 3月上旬 19時ころ

並びの「ぎょしゃ座」、2等星カストルと1等星ボルックスが仲良く並ぶ「ふたご座」と、明るい星をもつ星座たちが星空に描かれています。

■ 火星接近！

赤い惑星「火星」が、ふたご座のあたりで明るく見えています。

火星の接近ということ、2003年8月、約6万年ぶりに地球へ超大接近したことが話題になりましたが、その後も2005年10月、そして2007年12月と、およそ2年2ヶ月ごとに地球に接近しています。

今回、火星と地球が最も近づくのは12月19日。そのときの距離は約8,817万キロメートルで、2003年や2005年の時と比べると遠くなります。そのため、明るさもマイナス1.6等級ほどにしかありません。それでも、全天で一番明るい「おおいぬ座」のシリウス(マイナス1.5等級)と同じくらいの明るさで輝いているので、よく目立っています。

この冬は、オリオン座のベテルギウス、おうし座のアルデバラン、そして赤い惑星「火星」の三つの赤い星がそれぞれの赤さを競い合っている星空が楽しめます。

ハッブル宇宙望遠鏡がとらえた火星(2003.8.26)

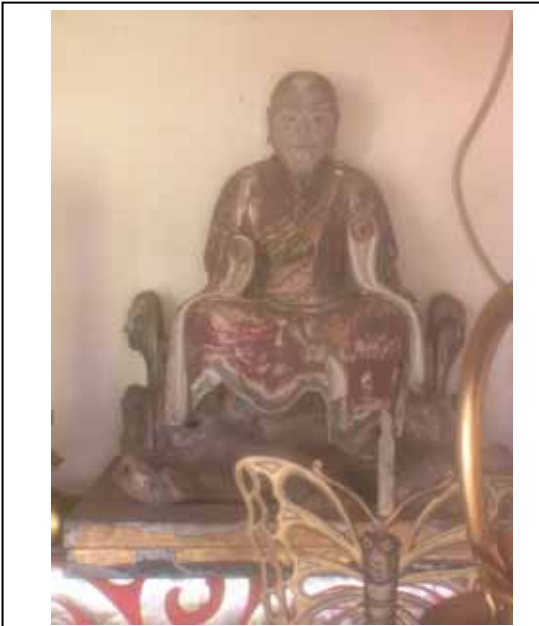
© NASA, J. Bell (Cornell U.) and M. Wolff (SSI)



安倍晴明史跡めぐり 其の二

今回は安倍晴明の最大のライバル、蘆屋道満の人物像、そして、安倍晴明と蘆屋道満の対決についてみていくことにしましょう。

■ 蘆屋道満(生没不明)



蘆屋道満木像

彼の屋敷があったとされる場所は、現在、正岸寺(しょうがんじ)というお寺が建てられており、敷地には蘆屋道満の顕彰碑(けんしょうひ)と木製の蘆屋道満像を安置したお堂が建てられています。

蘆屋道満は平安時代中期の法師陰陽師で、播磨の国、印南郡岸村(現在の兵庫県加古川市西神吉町岸)の出身とされています。そして、彼の出身とされる播磨の国は法師陰陽師知徳をはじめ、数多くの民間の陰陽師たちを生み出した、陰陽師の宝庫でした。

ただ、蘆屋道満自身は、その存在さえも疑われているほど謎の多い人物で、法師陰陽師知徳をモデルにして作られた架空の人物であるという説や、知徳本人が蘆屋道満であるという説、さらに播磨の地域の陰陽師集団を人物化したものであるという説もあります。

さて、法師陰陽師のひとりであった蘆屋道満は、京都で並ぶもののない陰陽師の第一人者と評される安倍晴明の噂を耳にし、自らの目で確かめるために京都に上り、安倍晴明に闘いを挑むことにしたのです。

■ 安倍晴明と蘆屋道満の術比べ

安倍晴明と蘆屋道満は、宮中で互いの術を比べ合うことになりました。陰陽道を極めた実力者同士の闘いですから、勝負はなかなかつきませんでした。そこで箱の中に入っているものを透視するという術の優劣で決着をつけることになりました。

用意された箱の中には、夏ミカンが15個入れられていました。箱の中を透視した蘆屋道満は自信満々に「15個の夏ミカンが入っている」と答えました。ところが安倍晴明は「15匹のねずみが入っている」とまったく違うことを答えたのです。

箱の中身を知っている宮中の公家たちは「このままでは、安倍晴明が蘆屋道満に敗れてしまう」と騒然となりました。晴明と道満の二人に催促されて箱が開けられると、なんとねずみが15匹飛び出してきたのです。

実は安倍晴明が術を使って、箱の中の夏ミカンをおねずみに変えてしまっていたのです。

こうして、術比べは安倍晴明の勝ちとなり、蘆屋道満は安倍晴明の弟子になることになったのです。

■ 蘆屋道満の呪い

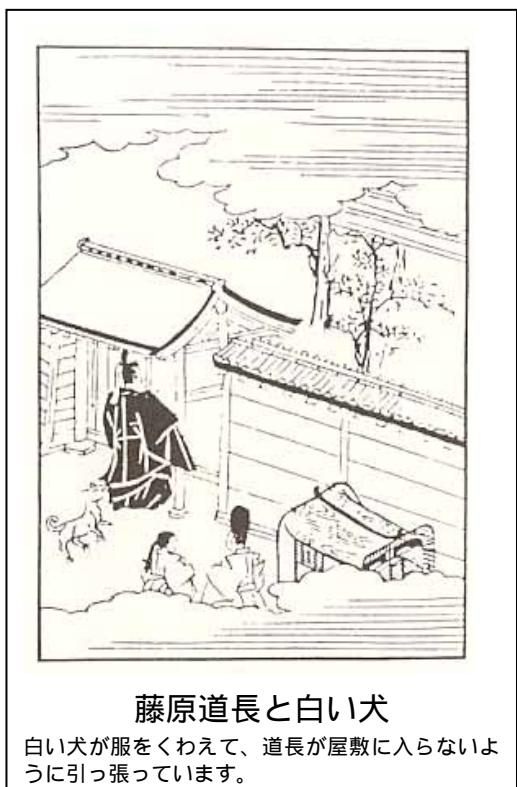
安倍晴明の弟子になった蘆屋道満ですが、そのまま、おとなしく弟子を続けてはいませんでした。そして道満は、時の権力者、関白藤原道長に呪いをかけて亡き者にしようという、とてつもない行動に出たのです。

道満は藤原道長の屋敷の門に、道長を呪うものを埋めておきました。そのことに道長の可愛がっていた白い犬が気づきました。犬は道長が門をくぐろうとすると、服をくわえて、屋敷に入らないように引き止めました。

なにかを感じ取った道長は、信頼していた安倍晴明を呼び、原因を調べさせました。晴明は、門に道長を呪うものが埋めてあることを突き止めると、紙で鳥をつくり、それを犯人に向けて飛ばしました。そして、その鳥は蘆屋道満のもとに舞い降りてきたのです。



晴明と道満の対決
箱を開けて中からねずみが出てきたところ



藤原道長と白い犬

白い犬が服をくわえて、道長が屋敷に入らないように引っ張っています。

実はこの事件、蘆屋道満一人で起こしたものではなく、黒幕がいました。それは藤原道長のライバル左大臣藤原顕光という人物でした。顕光は藤原道長を倒して、権力を手に入れるために、道満を使って道長を亡き者にしようと考えたのです。

道満も、藤原顕光が権力者となって自分の力になれば、安倍晴明に代わって陰陽師の第一人者になることができる、と考えて、この事件に加担したのです。

二人のたくらみは失敗に終わり、蘆屋道満は播磨の国に追放されることになったのです。

倫敦(ロンドン)博物館めぐり その2

戸田 博之(国立天文台岡山天体物理観測所)

前回のあらすじ…9月20日夜ロンドン着。翌21日、大英博物館見学。念願のパルテノン神殿の彫刻群を見ることができた。ロンドン滞在時間は残り52時間。



< 帝国戦争博物館 >

地下鉄で帝国戦争博物館へ。玄関前に大砲が展示されています。大英帝国がいかにして世界に君臨したかを見たかったのですが、多くは比較的良く見かける兵器と、戦争の歴史に関する展示でした。ホロコースト(ナチスの大量虐殺)の展示コーナーもありました。

帝国戦争博物館には閉館間際までいた後、童謡で有名なロンドンブリッジを渡り、跳ね上げ式の橋タワー・ブリッジを見物。開館時間が延長されていた大英博物館にもどり、パルテノン神殿の彫刻の前で「ギリシャに返せよなぁー」と日本語でもう一度言ってこの日の博物館巡りは終了。ロンドン滞在時間、残り45時間。

9月22日、大英帝国がいかにして世界に君臨したかを見るため、今度は国立陸軍博物館に行く。ここは館内の写真撮影禁止。写真に撮っちゃいけない秘密があるんだ！と期待したのですが、展示内容はイギリス陸軍の戦いの歴史を語りながら、兵士の姿などを再現した展示も多かったですね。写真に撮っちゃいけないほどの物はないよなぁ…。帝国戦争博物館にもあったのですが今年は[フォークランド紛争 25周年]と言うことで、それに関する展示がありました。イギリス本土から遠く離れた南大西洋の小さな島、大英帝国が世界に君臨した名残ですね。

昼過ぎ、バスと地下鉄で移動し自然史博物館へ。まずは建物がすごい！大聖堂の様です。館内にはあるわあるわすごい展示物の数！恐竜の骨格標本やいろいろな動物のはく製、小さな昆虫の標本などなど…。とにかく広い！全部見ようと館内を歩き回ると足が痛くなってしまいました。



< 自然史博物館 >

ロンドン滞在時間、残り28時間。まだまだ博物館めぐりは続く…

< 編集後記 >

今年もケラマにザトウクジラがやってきたようです。

初確認の日、実はすぐそばで潜っていた私。会いたかった～。 Yumi

マニアックな話はまだまだ続きます(もういい?)

次回からは浅口市内にある安倍晴明ゆかりの地を紹介していきます。 Kabu

前回の編集後記で「米国立自然史博物館に行っていないな～」と書きましたが、行っちゃいました。

ということで、旅行貧乏です。 peg

美味しくてカラダにいいものだ～い好き！我が家の琥珀色になるカリンでカリン酒をつけました。

おいしく飲めるのはいつのことかな?? KIYO

秋晴れのもと、大山登山へ。下の方は紅葉、上は雪っていう絶好のタイミングで大山を制覇!!

まっ、でも、その後数日間、筋肉痛との闘いが続いたんですけどね・・・ tomo

この博物館通信は、岡山天文博物館が作成しています。次回 春号は3月ごろ 発行予定です。

岡山天文博物館 浅口市鴨方町本庄 3037-5 TEL・FAX: 0865(44)2465 休館日: 月曜・祝日の翌日
博物館ホームページ URL <http://www.city.asakuchi.okayama.jp/museum/index.html>